

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101867
法人名	有限会社 美 母 愛
事業所名	グループホームくまのの郷
所在地	宮崎県宮崎市大字熊野字熊野7325-1 (電 話) 0985-58-2154
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 11月 4日

【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢 平均	84.3歳	最低	67歳
		最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀山記念クリニック 希望ヶ丘歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改造した木造平屋のホームである。地区にはホームと交流のある宮崎大学やスーパー、郵便局、利用者が散歩している熊野神社などがある。ホームには柿や金柑、桜の木もあり、菜園で収穫されたものは四季おりおり食卓に出される。利用者の手引で作られた折り紙のくす玉が各居室にも飾られている。利用者は自分のお財布を使っての買い物を楽しみ、近隣の人達と声をかけ合い、職員は利用者が日々その人らしく今を大切に過ごせるように努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族等の意見の運営への反映について、家族からの意見ノートを作成したり、常にコミュニケーションを図る機会を設けている。食事については食堂スペース等の事情もあり、全職員が利用者と一緒に食べることは出来ていない。しかし、いずれも管理者及び職員全員で改善に努めている段階である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は共に自己評価を行い、気づきをケアへとつなげている。また改善課題についても積極的に取り組む姿勢はある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はホームの状況やサービスのあり方等の協議を3~4か月に1回行っている。地域密着型サービスのホームとして2か月に1回の会議となるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の意見、苦情等を受け止める体制は出来ているが、今後さらに、家族会の結成の工夫などで、多くの家族の意見を運営に反映する取り組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入し、地区の作業や公民館活動にも積極的に利用者共に参加し、近隣との交流もある。地区の大学の学生ボランティアを通しての交流もあり、利用者は今年も大学のみかん狩りを楽しみにされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしさと笑顔、利用者の今を大切に」や、地域との関わりを含めた事業所独自の理念である。全職員で今後も更に地域性を大切にしたい理念の見直しをしようとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者の今を大切にして、利用者の意向に寄り添い、発語の少ない方には日常的に声をかけるなど、理念の実践に努めている。職員はTシャツの背に理念を書き込んでおり、利用者が声を出して読まれるたびに意識を深め、ケアの刺激になっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の作業や公民館でのいきいき活動にも参加している。くまのの郷便りを自治会に回覧したり、地区の郵便局や大学にも配っている。利用者は大学生の読み聞かせボランティアの訪園を喜び、大学へ芋掘りやみかん狩りに行くことを楽しみに待たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は共に自己評価を行い、外部評価の意義を理解し全員で改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議としてホームの状況やサービスのあり方、相談や報告、協議などを3~4か月に1回行っている。	○	地域密着型サービスとして、2か月に1回の会議開催となるよう工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者及び職員は、市の担当課主催の研修会に参加し、直接市の担当者への電話等でサービス情報を得たりしながら、サービスの質向上に反映させている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしや健康状態、金銭管理の状況を家族等の来訪時には直接伝え、遠方の家族等には便りや電話で月1回の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見・苦情等を受け止める体制は出来ている。遠方の家族が多いため家族とのコミュニケーションを図る機会が少ない。		家族も参加しての行事など行なわれており、今後このような機会をもっと計画し、また家族会の結成など、多くの家族が気兼ねなく意見、相談をして頂けるように工夫してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代しても、利用者へのサービスが円滑であるように、ホーム開設当初からの職員が新規職員を補佐しあっている。家族等には職員の異動を便りで知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内外の研修を公務で受けている。受講者は全職員に復命伝達し、サービスの質向上へつなげている。管理者は、内部会議等に休みの職員が意欲的に出席できるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同業者と研鑽や交流をしている。また、地域の医療・保健・福祉等の関係機関とも情報交換等を行い、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族等が、利用開始前にホームの見学をされて、職員や他の利用者と同様になられてから利用開始としている。突然の利用開始もあり、管理者・職員は利用者にとっての急激な環境変化を日々考慮しながら対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から野菜作りや料理法、またうがいの仕方や痛みの対処法などの生活の知恵など、教えてもらう関係を大切にしながらケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今を大切にす理念を基に、ドライブに行きたい、買い物をするなど、利用者の今日したいことに即対応するように努めている。それぞれのふるさとへ年1回は訪ね、昔なじみや親族等との語らいの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や利用者の日ごろの思いや観察を基に、ケア会議で検討し介護計画を作成している。		これからも状態が変化していく利用者の思いを把握したケアに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を3か月毎に見直ししており、状態に変化がある時は家族等に説明し、その都度計画の見直しをしている。日々の状態観察がモニタリングにつながっている。		変化のない場合にも、毎月、モニタリングを行い、計画の見直しに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診に家族が同行出来ない時には、ホームで対応している。自宅介護を受けておられる方の緊急宿泊要請も柔軟に受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が家族同伴で、それぞれのかかりつけ医師に受診したり、また、往診を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針や、家族等との契約書の作成、かかりつけ医師、訪問看護ステーションとの連携体制が出来ている。職員全員で看取りの方針を共有するには至ってない。		管理者と職員はニーズに合った具体的な方針を立てられるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーを損ねないように常々言動に配慮しているが、時には利用者に遠慮のない言葉かけをしていることがあると、自己点検で気づきを得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やドライブをしたり、お小遣いをそれぞれ自分のおさいふに入れてのお買い物や美容室に出かけたり、利用者が日々いきいき過ごされるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる食器洗いや米とぎ、野菜の選別、片付けなど職員とともにやっている。食卓はなごやかな雰囲気である。職員は、テーブルペース等の事情で、一緒に同じものを食べていない。	○	前年の外部評価の改善課題でもある。例えば月・水・金曜日だけでも、みんなと囲み合って食べるなど、くまのの郷なりの工夫した取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金曜日と定めているが、利用者の要望があればいつでも入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を尊重しながら、菜園の世話、金柑をちぎっての加工、趣味などが楽しみとなるように日々支援している。また、レコード係としてレコード盤を換えたり音量の調整、食材の皮むきなど、それぞれその人なりに出来る力を活かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って戸外に出かけている。近くのスーパーや神社は散歩コースである。ドライブ希望も多く展覧会や墓参、外食など車で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。車の往来はあるが、利用者の外出傾向を理解把握し、安全確認に配慮しながら、利用者の自然行動を見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震を想定し消防署の協力を得て、訓練を年2回行っている。職員の家族が消防団員であり、また運営推進会議においても訓練の手伝い協力を呼びかけている。		災害時に協力を得られるよう近隣に働きかけられているが、さらに地域の協力が強化されることを期待したい。運営推進会議の議題にしたり、会議の参加者も柔軟に増やすなど工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事量や水分の確保がなされている。専門的な助言・指導を管理栄養士から継続的に受けることができるような体制を計画している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々民家であるため共用空間は利用者にとって、自分の家としての親しみとなじみややすさがある。利用者が活けられたお花、絵、紙細工などと、利用者が持ち込まれたレコードプレーヤーも居心地よい雰囲気をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれのなじみの品物が持ち込まれ、換気もよく明るい居室である。仏壇持参もあり、おやつを供えてから食べるなどと、利用者と職員の会話が自然にかわされている。		